



修理川小学校

いしがき学園で弱さの補強を

1 趣旨

へき地校・小規模校ならではの特色を生かした教育と環境の異なる多様な人との交流を大切にするにより、子どもたちが将来どんな場面に会っても自らの思いや考えをもって、進んでいくことができる力を身に付けさせてやりたい。

2 取組

◇へき地校・小規模校の特性を生かす教育活動

① ふるさとを愛し、誇りが持てる教育

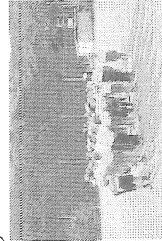
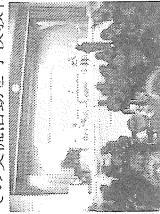
ふるさとに関する学習活動等において、直接体験を大切に、感動し、学習意欲が高まるように展開を工夫する。また、地域の自然や文化、人々との触れ合いを通して、ふるさとに対する理解と誇りをめづる児童の育成に努める。

② 地域の特性が生かせる教育

地域の実態を的確に把握し、地域や学校の特性を積極的に生かす教育活動の展開に努める。また、地域の素材や人材を一層活用し、地域の教育力を積極的に学校教育に生かすように努める。

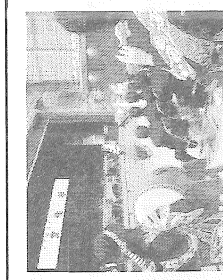
◇弱さを補うための交流学習

いしがき学園での交流活動を学校教育に生かすように努める。



3 成果

- 受動型ではあるが、地域の自然や人材、伝統文化に触れる体験は、ふるさと修理川小のよさを感じ、誇りをもつことになった。
 - いしがき学園での交流学習も実施してきて、へき地校・小規模校では体験することができない同年代の大勢の友達の中で学ぶことで、自己を表現し、自信をもって何事にも取り組む機会になった。
- また、本校ならではの特色を生かした教育と環境の異なる多様な人との交流を大切にすることができた。



五面月小学校

ワークショップ「保護者井戸端会議」

～親・学校の連携・ふれあい・意思疎通をめざして～

1 保護者の現状

本校は、保護者9家族という小規模校である。その半数以上が三・四世代同居であり、同居していない家族も祖父母が同じ敷地内か同じ地区内に居住している。また、どの家庭でも父母のいずれかは他県や他の地方から来ている。さらに、専業農家以外のどの家庭においても、何らかの形で農業に関わっている。

一見、少人数でみんなが親しく気心の知れた仲のようであるが、日々の仕事や休日の農業などに忙しく、保護者同士がゆっくり話し合う機会が少ない。

2 趣旨

- ・学校から働きかけて夜の保護者学級（井戸端会議）を開くことによって、保護者同士・保護者と学校との連携を深める。
- ・日頃、あまり聞けない学校への要望や家族間の問題などを、雑談の中で互いに気安く語り合う。
- ・問題が起きてからの対応ではなく、日頃から保護者の声を聞くことにより予防的効果をあげる。

3 内容・形式

- ・難しい議題や学校からの要望などは設定せず、湯茶や菓子を用意した気軽なものにする。
- ・ワークショップ形式で、参加者が自発的に発言できたり聞き役にまわったりできる場づくりをする。

4 効果

第1回（9月）

初回ということもあり、真面目な話題が多かったが、小規模校へ我が子を入学させることの不安など、本音を聞くことができた。

第2回（10月）

かなや学園構想が話題になると、保・小・中学校全般における子育ての話題になり、我が家の子育て方針等も聞くことができた。

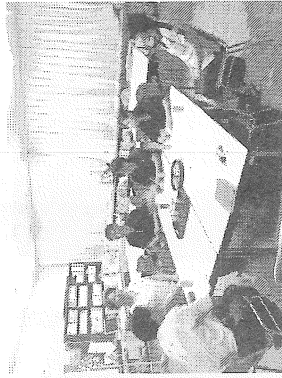
第3回（11月）

和気藹々の中で話が進み、それぞれの家庭の内情が出され、一気に親密感が高まった。

子育ての方針で、学校への不満ともとれる意見も出たが、それによって、問題が大きくなる前にその両親と話し合っていくきっかけができた。

第4回（12月）

保護者から、夜子ども達を体育館に集めてスポーツをさせようという提案が始まった。全員の賛同を得て、「さしきっ子クラブ」が発足し、毎週2回の活動が始まった。



平成22年11月2日

保護者各位

五面月小学校長 田嶋 徳弘

第3回五面月小学校保護者学級の告知状

両校の親、保護者の面談に合わせましてはますますご理解のことと拝見の上申し上げます。本校は、学校経営にご理解、ご協力いただきありがとうございます。さて、10月25日（木）に行なった保護者学級にはお集まりいただき、ありがとうございました。保護者学級では、次のこと等について語り合いました。

・通学路の安全（イノシシ、鹿被害等）

・広域学園構想

・AKITEN（佐田川内小学校区対馬町校区）

・五面月小学校 水・電・ガス

・文部科学省への体力を測る運動の推進と子どもの体力について

子どもたちの通学や登校を心配、思うと特に子どもたちの安全に配慮するための運動等、互いの思いをぶつければ、相互に理解し合うことができ、両校が一歩前進し、後進の両校は、何の口喧嘩もありません。問題を予防しています。

日

1. 11月 午後2時～3時15分（6校）

午後7時～

2. 11月 五面月小学校 田嶋 徳弘

3. 11月 五面月小学校 田嶋 徳弘

・子育てについて、五面月小学校の子どものために、五面月小学校に勤務する、子どもを育てる、五面月小学校の保護者、保護者同士の交流を深める。

城山西小学校

ふるさと教育で魅力ある学校づくり

1 趣旨

和歌山県では、「ふるさと教育」を推進しており、本町においても、地域人材や地域素材を生かしたふるさと学習を推進することとを重点項目においている。本校も、従来のふるさと教育より地域が持つ豊かな教育資源や教育力を生かす取り組みを進めている。しかし、計画的に取り組まなければ、学校の多忙化をより進める結果となる恐れがある。そこで、ふるさと教育の取り組みを整理し、ねらいを明確にした教育活動を推進すること、子どもや保護者、そして教職員にとって魅力のある学校にしたいと考えて取り組んだ。

2 本年度の取り組み ※ → () 内はマネジメントの目的

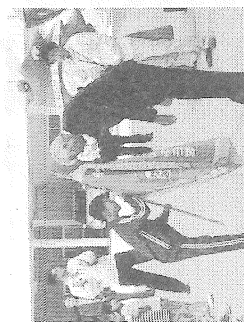
- (1) 子ども歌舞伎
 - ・外郎指導者を2名に増やし、夜間練習を2回に減らした。→ (教職員の超過勤務の軽減)
 - ・児童数減少を受けて、役割分担を見直した。→ (教職員の負担軽減・今後の見直し)
 - ・歌舞伎保存会による上演を直接見直し、会員の思いを児童に直接伝える機会を設ける。→ (教職員や子どもたちへのメッセージ)
- (2) 地域の特技を持った人材の活用
 - ・本校出身の地元陶芸家の指導を受けることによる本物の体験的学習。(特別非常勤講師制度と教育活動奨励交付金の活用)
 - ・毛筆指導に地域の書道家を活用(特別非常勤講師制度)。→ (教員の指導力向上)

(3) みどりの少年団の結成

- ・学校及び地域の環境整備やボランティア活動を緑の少年団の活動に集約することで、特別活動の重点化、意識化を図る。活動助成金の活用も図る。→ (教職員が動きやすい仕事に仕組む)

(4) 学校からの情報発信

- ・学校掲示板の活用・・・保護者向けの学校だより(A4版)を地域向けに修正し、ポスターサイズ(A3×4)に拡大し、道路に面した掲示板に掲示する。→ (教職員へのメッセージ)
- ・年間3回、校区内全戸配布で学校通信を発行する。→ (学校支援への理解を図る)



みどりの少年団の結成



地元の陶芸家に学ぶ



地元の書道家に学ぶ

3 成果

- ・マネジメントの資源である「人的資源」「物的資源」「資金的資源」「情報的資源」「ネットワーク資源」を総合的に活用できる仕組みが整い、教職員が動きやすくなった。
- ・ふるさとや学校に対する誇りや誇りを感じて、平成22年度ふるさと和歌山学習大賞に応募し、奨励賞を受賞することができた。学校の教育実践を地域に発信することで、学校に対する理解を深めることができるようになった。感じている。子ども、保護者・教職員・地域住民それぞれに魅力のある学校づくりを進めていくために、今後も改善・充実を図りたい。



金屋中学校

「教職員必携」でマネジメント意識の向上

学校マネジメント機能(教職員が、事務の効率化を図り、生徒と向き合う時間の確保をし、教育内容の充実にも努める働き)を高めるため、「金屋中学校 教職員必携」(クリアーファイル、加除式)を活用している。

1 期待する効果

- 校長の経営方針を浸透させ、教職員の共通理解を図る。
- 機会を捉えて繰り返す。教職員の自己管理能力を伸ばす。
- 資料整理の効率化と教職員の自分で調べられる。
- 外部に示せる実践資料となる。
- 担当者、どの会に出席しても使える。

共通理解の効率化

資料整理の効率化

資料作成の効率化

2 内容(主なファイル項目)

教務必携にファイルしていく資料は、校長作成資料、教育委員会からの資料、各種研修会資料及び職員会で協議した資料等であり、随時加えたり、差し替えたりする。

金屋中学校

教職員必携

* 学校経営方針 / 学校案内

- 1 服務について
 - ・不祥事未然防止のためのチェックリスト
 - ・職務規律の遵守と細心の厳正保持について
 - ・教職員の過学運動の禁止等について
- 2 教育課程について
 - ・【手元】備えておくべき資料等
 - ・和歌山県学校教育指導の方針と重点、フレンド
 - ・学習指導要領の改訂の要点と移行措置
 - ・有田川町学校教育指導の方針
 - ・本校実践指導、教育計画
 - ・各教科・領域等全体計画、年間指導計画
 - ・最終評価
 - ・前年度の結果(全国学力・学習状況調査、新体力テスト)

3 人権教育

・全体計画

4 特別支援教育

- ・個別の指導計画の形式及び記入について
- ・配慮を要する生徒の状況
- ・有田川町教育指導委員会資料様式

5 生徒指導、教育相談

- ・服装規定(ゼッケン用)

6 学級事務

- ・通知表の記入について
- ・指導要録の記入について
- ・就学援助の流れ

7 諸届けについて

- ・旅行命令書の記入に関わって
- ・パス(教育委員会バス 他)利用申請について

8 保護者対応について

3 効果

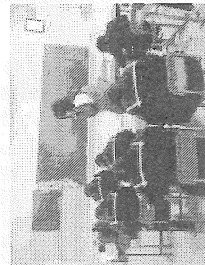
- ◎学校の経営方針を常に意識し、行動できるようになっている。
- ◎学習指導や生徒指導など、共通理解が進みそれぞれの自覚が高まりつつある。

4 その他のマネジメント

① 放課後補充・発展学習

(奨励金活用による非常勤講師)

② 学習空間バージョンアップ事業による作業員の配置





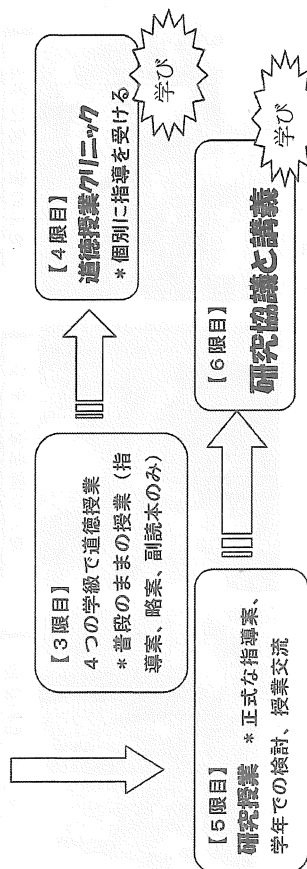
金屋中学校

役割分担の明確化と外部人材の活用

研究授業の成果を共有化

金屋中学校

畿央大学教授・島 恒生 先生 来校(2/1[火])



クリニックや研究授業・協議での個人の「学び」を学校全体の「学び」に！

○自らの学びの「整理」
○学校全体での「共有化」のための情報発信
OA4, 1枚 (今回は5人分のため表裏)

教職員の学や「書く力」
まどめる力」を高めるマ
ネジメント

研究協議(道徳)から学んだことを共有化するために

○道徳授業クリニック(2/1)

【1限目】道徳授業クリニック(2/1)

【2限目】道徳授業クリニック(2/1)

【3限目】道徳授業クリニック(2/1)

【4限目】道徳授業クリニック(2/1)

【5限目】道徳授業クリニック(2/1)

【6限目】道徳授業クリニック(2/1)

【7限目】道徳授業クリニック(2/1)

【8限目】道徳授業クリニック(2/1)

【9限目】道徳授業クリニック(2/1)

【10限目】道徳授業クリニック(2/1)

【11限目】道徳授業クリニック(2/1)

【12限目】道徳授業クリニック(2/1)

【13限目】道徳授業クリニック(2/1)

【14限目】道徳授業クリニック(2/1)

【15限目】道徳授業クリニック(2/1)

【16限目】道徳授業クリニック(2/1)

【17限目】道徳授業クリニック(2/1)

【18限目】道徳授業クリニック(2/1)

【19限目】道徳授業クリニック(2/1)

【20限目】道徳授業クリニック(2/1)

【21限目】道徳授業クリニック(2/1)

【22限目】道徳授業クリニック(2/1)

【23限目】道徳授業クリニック(2/1)

【24限目】道徳授業クリニック(2/1)

【25限目】道徳授業クリニック(2/1)

【26限目】道徳授業クリニック(2/1)

【27限目】道徳授業クリニック(2/1)

【28限目】道徳授業クリニック(2/1)

【29限目】道徳授業クリニック(2/1)

【30限目】道徳授業クリニック(2/1)

研究主題の「話す力」の育成において、取組の役割分担の明確化と外部人材の活用で、準備・指導の効率化を目指した。

1 役割分担の明確化

- ① 教科において…教科担当
- ② 特別活動…研究主任・教頭
- ③ 専門委員会…生徒会担当

2 外部の人材活用

特別活動において、専門性の高い外部の人材を積極的に活用する。

◇話し方講座①(6/22)

元アナウンサーの方を迎えて、話し方の講義と実技、パネルディスカッション

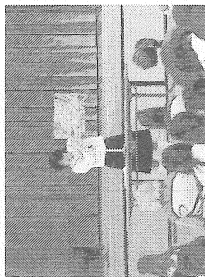
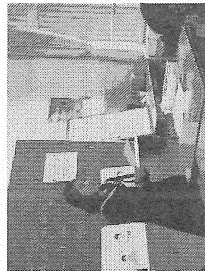
◇話し方講座②(11/1)

元劇団の代表の方を迎えて、講演会

3 効果

- ① 役割分担を明確にすることや外部の人材を活用することで、一人で何役もこなさなくては済むようになった(準備・指導の効率化)。
- ② 自分の役割に対して、工夫・集中・自覚等が高まった(質の向上)。
- ③ 専門家から取組に対しての様々なアプローチの方法を学べた。

話し方講座②



話し方講座① 原稿の読み方



話し方講座① パネルディスカッション



白馬中学校

学校が組織として機能するために

マネジメントによるシステム——ズ・マネジメント

本校では、生徒の視点に立った学校教育をますます充実させるために、幾つかの学校マネジメントの手法を取り入れています。その中でも、成績処理についての取り組みを行っています。今までは、各教科で成績処理をする場合、時間がかかり、効率の良い成績処理を行うことができなかった。

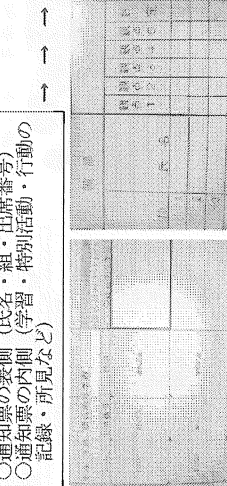
成績処理の時間の軽減を図る取り組み

「成績」の処理業務について、業務の標準化を目指し、一台のパソコンへ各担当者が入力し、全員の教員が各教科の個人の成績、平均点、偏差値、度数分布を確認できるようにしている。

(1) 成績処理のすべてをアクセスできるように

- テストの素点の入力
- 通知票の表側 (氏名・組・出席番号)
- 通知票の内側 (学習・特別活動・行動の記録・所見など)

メリット



(通知簿 所見、観別、評定)

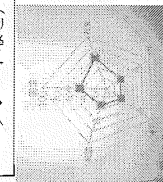
教師の成績に関わる仕事のすべてを、一つのファイルに入力できるようにしている。
成績処理の過程を、優れた処理能力をもつパソコンで行うことで、教師の負担が軽減できている。また、いくつかのソフトを使って成績処理をするよりは、一つのソフトを使うことで、すべての処理ができるほうが作業の効率向上につながる。

(2) 手軽に使えるように

- テストの素点の入力
- 日常の取組の評価 (ワークシートなど)

生徒の入力画面で生徒の成績を入力する。

通知票の様式



- 一紙、入力するとデータが通知簿に反映される
- 個人の成績にも反映される

印刷の様式が作られていて、いちいち調整して印刷する必要が無く、自分の印刷したい様式を選んで印刷実行すればいい。

← (御票でグラフ化)

(3) 通知簿にも反映

「エクセル」で作成して、氏名、出席番号、各教科の評定、観別評価、特別活動、特別活動、所見を入力すると通知簿に反映できる。

★成果と今後の課題★

- 一斉の成績処理用のパソコンで、成績処理することができ、個人の個票がすぐ上げられるし、全教職員が生徒一人一人の成績を確認することができる。
- ネットにつながらないで、セキュリティ面は心配ない。
- 本校は、生徒数が少なく、処理する時間がそうかわからないが、小規模や大規模の学校では、成績処理の負担に差が出てくるのではないだろうか。その負担をなくし、どの学校でも成績処理がスムーズにできるように負担軽減を図っていきたい。
- 指導要録もスムーズにできるように作成したい。



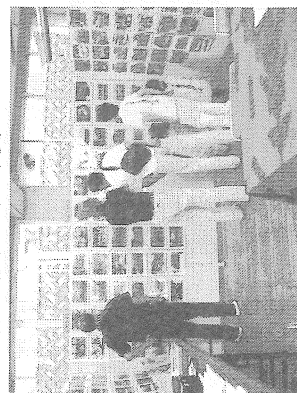
安謐中学校

郷土資料室開設で来校者数アップ

郷土資料室 (町議会議員さん来校)



郷土資料室 (校区の方の来校)



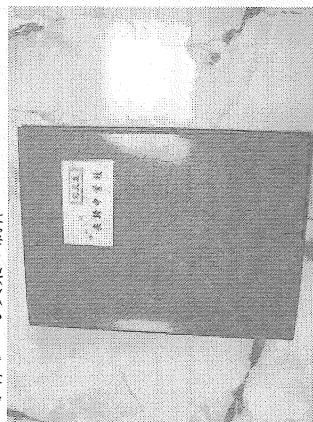
1 趣旨
本校では、昨年度から総合的な学習において「安謐中学校の歴史」をテーマに取り組み、過去の写真等を収集整理してきた本年度は一階に空き教室ができたので、それを有効に活用して郷土資料室を整備することにした。過去の卒業記念写真や修学旅行の写真等を大きく印刷し、パネルに年代順に掲示した。現在、郷土資料室には開校から60年あまりの期間の100校あまりの写真がずらりとならんでおり、なかなか壮観である。

2 効果
集められた方々は、掲示している写真をご覧になったあと、それをきっかけにかつての安謐中学校や生徒、あるいは勤務されていた先生方の思い出に花を咲かせ、大勢にぎやかに話した。学校だよりで紹介すると、校区からさらに多くの方に集められるようになり、やはりそのときに嬉しい思い出がはなはたに花が咲いた。

本校はごく小規模の学校であり、地域との結びつきを強めるように努めてきた。この取り組みのおかげで、懐かしい時代を思い出していただけでなく、現在の学校・生徒への支援の声も大きくなり、結びつきが強くなった感じがしている。

3 写真集の制作
学校の地域貢献のひとつとして、掲示した写真をもとに「懐かしい安謐中学校の写真集」を生徒・職員で協力して制作し、校区の方の手に届けた。これも大変好評で、お礼のメッセージがあいついでいる。

手作りの写真集の制作



手作り写真集の封入作業風景





コンピュータ及びデータの有効利用

1 趣旨

○本年度、教育委員会より、職員に一人ひとりにコンピュータが支給された。そのことにより、今までの個人のコンピュータで自分の好きなように管理していたデータが、学校の財産として共有されることになった。

データベース管理において、それぞれが自由にデータを保存すれば、必要な時取り出しに時間がかかるので、一定の約束をつけることで効果的に利用を図ることができる。

同時に、サイボウズを有効に使うことでそれまでの作業を軽減できると考えた。

2 取り組み

◇写真データベースの管理について、名前をつけるとき右のように、110206 学習発表会」とし、「2011年2月6日は学習発表会である」ことが分かるようにする。あわせて、他のファイルにも同様に6ケタの数字を頭に付けて、ファイル名を付けるようにした。

また、データの管理にあわせてサイボウズの有効利用がある。下段のように連絡事項を確実に伝えるために管内メールを使用している。管内メールには、必要に応じてファイルを添付している。

網路

著者：若宮 秀行(田原|学校) 2011/2/4(金) 15:27

宛先：江
(11人)

- ・ 庄生の卒業留級に伴う補習日のプリントを添付。
- ・ 留年のプリントを整理しました。また、22年度のところに進学予定のフォルダを作って、これまでのプリントを併せて個別に整理しています。

補習予定 1年 docx (application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document) 詳細 13 KB

3 效果

◇これまでは、保存した本人がいないと過去のデータの検索に時間がかかっていたのが、この方法以外にもいろいろなる方法はあると思われるが、日々を導入していただけるので比較的簡単に導入できた。今のところ写真ファイルから手がけているが、田殿小学校の保管場所に入るデータについては全て頭に6ケタの数字を入れるようにして、への資料の保管においてもより効

もう一点、サイボウズの利用については、回覧するより確実に職員に伝達することができ、かつ、サイボウズにファイル添付は、むだな印刷物を減らし費用と時間の節約に繋がることも確認できる。その際、サイボウズに「朝にサイボウズ。帰りにサイボウズ。帰りにサイボウズ。」徹底することで、忘れずにコミュニケーションの更新もできるようになった。



ICT活用による資質の向上

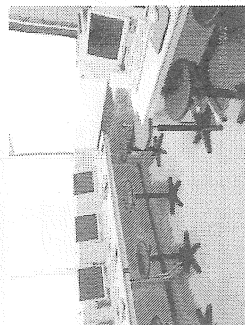
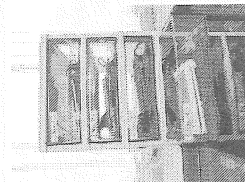
電子黒板や教職員用PC、タブレットPCの活用には教職員のスキルアップが必要である。

IC T 機器の研究



タブレットPCの研修

使いやすい環境づくり



PCを引き出しに収納して充電中・物置状態の空き部屋をPC室に整備

ICT機器活用の具体化

☆出勤したら、まず電源

☆ブレンゼンに挑戦

☆校内メールの活用

☆データの共有



全校朝の会(食育指導)

全校朝の会(学習発表会)

果効

「まずは使ってみよう」を合い言葉に電子黒板やプレゼンテーションソフト等の研修を実施し、電子黒板の活用が当たり前になるようになった。

年度当初に作成した朝の会（発表の日）の年間計画に沿って、児童も教師もプレゼンができるようになり、楽しさも味わっている。

また、パソコン室を整備したことで、利便性が
よくなり授業での活用が進んだ。

朝の会 (発表の日・月・木) の年間計画で
準備バッチリ!

[illegible]



久野原小学校

校内イントラネットによる校務の能率向上

1 趣 旨

本校は、小規模校で職員数も少ないため、伝達事項や行事予定等の様々な情報を、簡単かつ素早く共有できるという利点がある。しかし、たくさんの情報の中で、時には勘違いや、大事なことがぬけたことがあり、再確認の時間を要さなければならぬこともしばしばである。情報の共有を確かなものにするためには、それなり時間と労力が必要になり、校務遂行の大きな割合を占めることにもなる。そこで、シンプルであるが多機能なフリーソフトのスケジュールラーの機能を活用して情報を共有することで、時間と労力の短縮を試みた。

2 スケジュールラー (schedule watcher) 共有でできること

(掲載サイト: http://www.geocities.jp/sako_software/sws2.htm)

- ① 年間 (複数年) 予定をいつでも誰でも更新でき、常に最新情報を共有できる。
- ② 職朝での連絡事項や打合せ内容を事前、事後にいつでも確認できる。
- ③ 次回の職員会議の議題を提案したり、事前に確認しておくことができる。
- ④ 備品の購入希望や、施設設備の不具合をすぐに全職員に伝えることができる。
- ⑤ 電話等の伝言メモやみんなで共有すべきと思われる情報がある時はすぐに書き込める。

3 schedule watcherの利点

① フリーソフトであり簡単に入手可能。
 ② 掲示板を自由にカスタマイズできる。
 ③ 共有の設定が極めて簡単である。
 ④ ワープロ感覚で入力できる。
 ⑤ 更新データは自動保存される。
 ⑥ カタゴリ一別でデキス印刷ができる。
 ⑦ 起動や動作が軽い。

職朝メモ

購入希望、掲示板
次回職員会の議題

4 活用の効果

実質的な効果としては、職朝の時間を短縮できるようになったこと、全体に伝えなければならない伝言や連絡忘れがほとんどなくなったことがあげられる。情報の交流や共有化を図るには、やはり直接顔を合わせたコミュニケーションによって行われるのが望ましいが、多忙化すると、中々、効果的にそれを補い、より確かなものにするために、十分効果を発揮するものであると思われる。

今後は、有田川町が導入しているグループウェア「サイボウズ」の利点を生かして、校内イントラとしての有効活用を模索しながら、移行していきたいと考える。



八幡小学校

学校の資源を活かした授業力の向上

1 趣 旨

学校には多くの資源 (よい面) がある。素直で生き生きと学習する子どもたち、経験豊富なベテランの教職員。学校にある資源と機会を有機的に関連させ、授業力をさらに伸ばす戦略を整理した。

2 資源と機会(チャンス)

- 児童 ・ 素直で何事にもまじめに取り組む ・ 仲良く活発で元気よく遊ぶ
- 教職員 ・ ベテランで教職経験が豊富
- 機会 「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究授業」 研究指定

3 取組(戦略)

- (1) 研究の深化 (授業づくり)
 - ・ 教材研究を深める
 - ・ 児童理解をうながす教材・教具の開発
 - ・ 同僚から学ぶ
 - ・ 「歯と口の健康づくり」の専門的な知識と技能の向上
- (2) 事務作業の時間短縮 (職員朝礼、職員会議の効率化)
 - ・ 伝達事項を文書化し各職員が自己管理する
 - ・ 子どもと接する時間を増やし児童理解を深める



4 効果

- ・ 研究授業を中心に授業づくりについて研修した。授業のねらいを明らかにし、それを児童が確実に定着する授業を視点を協議で話し合った。担当する学年は異なっても、子どもたちの学力向上のために各教職員が経験に基づき意見交換することで、授業の質的向上が見られた。
- ・ 事務作業を効率化し子どもと向き合う時間を充実させた。学校の児童の理解を深めることで、より一層豊富な経験を生かすことができた。学習規律や望ましい生活習慣を定着させることで学力の向上を心がけた。また、担任外の児童との関係をも深めることで、職員が共通の認識を持ち児童の理解を深めることができた。

5 今後の方向

- ・ 事務の効率化を一層進め教職員が児童と向き合う時間確保する。このことにより授業力が向上し確かな学力の定着へと結びつけたい。
- ・ 全教職員が学校運営への参画意識を高め、「八幡小学校の子どもたちのために」を合い言葉に子どもたちの教育に携わることができるようになりたい。





学校評価を活用し活性化

(1) 趣旨

少人数・小規模校は、変化の少ない生活になりがちで、児童間にある固定的な序列意識が確立されてしまい、活動するにも限られた人数のためマンネリ化しがちである。しかし、学校としては、どの子どもにも質の高い教育を保証する義務がある。

そこで、学校評価をうまく活用することによって、学校を活性化し、子どもの学力や体力の向上や職員の資質向上、さらに保護者との連携を進めたい。

(2) 内容

年度当初に学校の教育目標を具体化した。目指す子ども像の「ししがせつ子」について、「しっかりとがんばる子」「しんせつにできる子」「互いの良き個性のちがいを認め合う」「がんばる子」は「目標を持って取り組む」「せきにんをもつ子」は「自分の持ち物の整理や管理ができる」というように、本校の実態から今年の取り組みを検討し、職員の意思統一のうえで具体的に示し、児童に知らせるとともに、保護者にも重点的な取り組みについて説明をした。この中でも、特に目標を持たせることを重点的に職員全員で進めていった。

2学期の終わりに学校評価に関する調査を実施した。これは、結果から反省、考察をして、3学期にさらに精選した指導するためにこの時期とした。また、保護者、児童、教職員の三者とともに同じ項目の調査をしてそれぞれの意識が比較できるようにした。参観日の全体会で保護者に学校だよりの学校評価版を作成して説明し、このことについて懇談会で話し合った。これにより、学校と家庭が話題を共有することができるとなればと思ってみてみた。

この後、さらに実践を進めて、3月に最終の調査を実施したい。

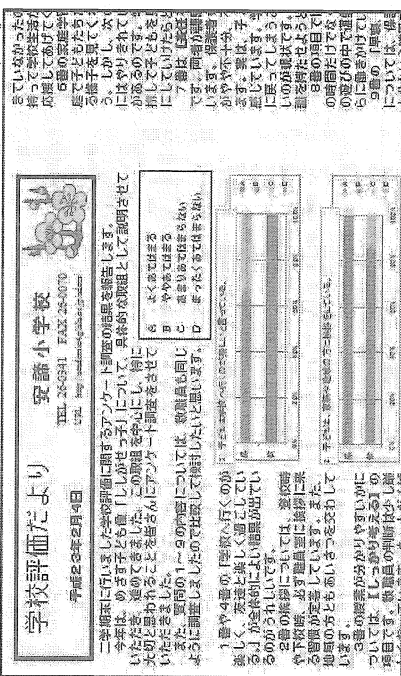
(3) 効果

形骸化しがちな学校の教育活動で重点的に取り組むことが評価されるようにすることで、学校全体にPDCAサイクルを作ることができ、学校評価が全職員にとって有用なものとなった。また、この結果が保護者と共有できる話題になることで、子どもの課題に対して、互いに検討する機会を持つことができた。



子ども像の「ししがせつ子」について、「しっかりとがんばる子」「しんせつにできる子」「互いの良き個性のちがいを認め合う」「がんばる子」は「目標を持って取り組む」「せきにんをもつ子」は「自分の持ち物の整理や管理ができる」というように、本校の実態から今年の取り組みを検討し、職員の意思統一のうえで具体的に示し、児童に知らせるとともに、保護者にも重点的な取り組みについて説明をした。この中でも、特に目標を持たせることを重点的に職員全員で進めていった。

2学期の終わりに学校評価に関する調査を実施した。これは、結果から反省、考察をして、3学期にさらに精選した指導するためにこの時期とした。また、保護者、児童、教職員の三者とともに同じ項目の調査をしてそれぞれの意識が比較できるようにした。参観日の全体会で保護者に学校だよりの学校評価版を作成して説明し、このことについて懇談会で話し合った。これにより、学校と家庭が話題を共有することができるとなればと思ってみてみた。



この後、さらに実践を進めて、3月に最終の調査を実施したい。



教師の力&地域力で学校経営

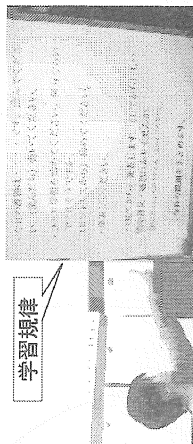
1 趣旨

近年の急激な社会の変化は様々な課題を山積している。こうした状況の中で一人ひとりの子どもに社会変革の激しい21世紀をたくましく生きる力を育てるために、教師の力・地域の力が大きなウェイトを占める。

個性に応じた教育の取り組み

- ◇子どもたちの学習意欲を引き出し個性に応じた能力を伸ばすように心がけた。
- ◇子どもたちが学習する際に、規律を守り学習に取り組むように配慮した。
- ◇安心して学習することができ環境を作った。

学習規律



3 校合同での学習

教職員の質の向上

- ◆教育公務員には常に研修努力が規定されている。個々の教育の努力によって学校教育の充実を図った。
- ◆常に校内研修に意を注ぎ学校教育の充実に努めた。



地域に根ざした学校

- ★知・徳・体の調和のとれた教育や豊かな感性を育む教育を行うために、学校・家庭・地域社会の三者が連携協力して子どもの教育にあたった。



ゲストティチャーを招いて



古橋中学校

生徒による授業評価を生かした授業改善

1. 趣旨

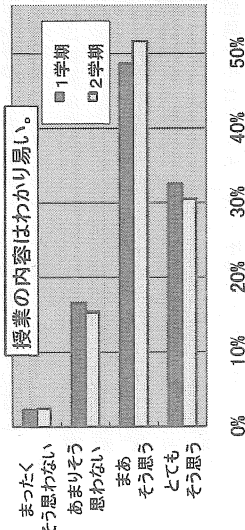
「わかる授業」、「魅力ある授業」を実現させるためには、教員が自ら授業を振り返りだけでなく生徒が授業をどうとらえているかを知り、それを授業改善に役立てることが重要となる。本校では、「生徒による授業評価」を実施し、対応策を考え、日々の授業改善に生かしている。

2. 実践内容と成果・考察

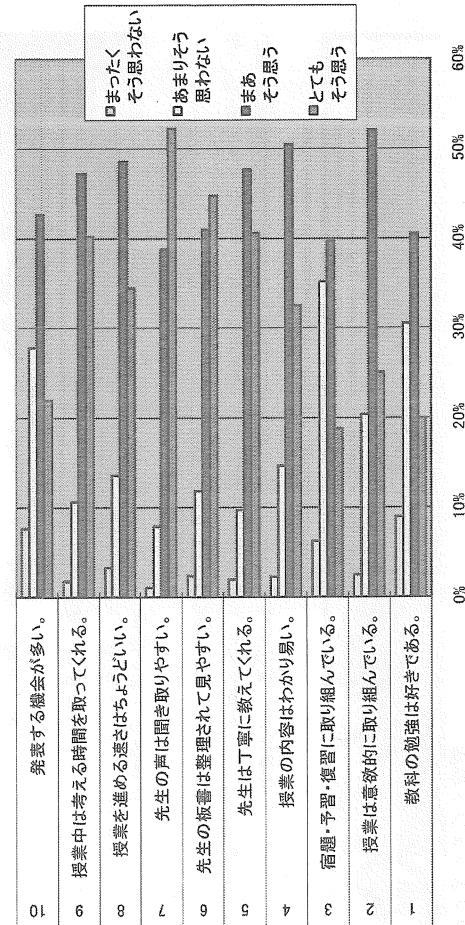
下記の項目で「生徒による授業評価」を1、2学期末に全教員が各教科で実施した。評価結果は、それぞれの授業を担当する教員が指導に役立てるとともに、学年会や教科部会、職員会議で検討した結果、教員全員で授業改善に取り組む雰囲気醸成された。その結果、概ね授業満足度が2学期の方が高くなっている。また、1学期と2学期の結果を比較・分析することにより、自身の授業の長所・短所が明確になり、具体的な対策を講じることができた。

授業は生徒主体であり、生徒の声が教員の意識を改革し、この教員の姿勢が生徒の学習意欲の向上にもつながっている。こうした取組を重ね、保護者等に情報提供すること、説明責任を果たすとともに、今後は、保護者による授業評価も取り入れ、より充実した授業改善をめざしたい。

■ 1学期と2学期の評価結果の比較



■ 2学期の「生徒による授業評価」の結果



石垣中学校

PDCAを意識した学校評価づくり

<教職員学校評価アンケート作成について留意したこと>

- 1 評価項目は学校運営組織に沿って作成する。
- 2 質問は教育計画に記載されている文章を基に、できるだけ具体的に明記し、チェック機能となるように工夫する。
- 3 各項目に教員の記述欄を設け、具体的な成果と課題を書くことによって、プラン、アクションが見えるようにする。

<教職員学校評価アンケートからの成果と課題>

留意点3について、各項目毎の成果と課題が明記されることが多かった。また、書かれていても具体的なでなかつたため、会議の場で具体的に意見があったが、組織としての視点で書かれた意見と学校運営全体の視点から書かれた意見が出た、学校運営に携わる教員の意識の向上が図れた。

今後は成果と課題が具体的に明記されやすいように、工夫点や実践例なども交えることで、情報交換の場とし、具体的なACTIONへつなげていきたい。

<本校の重点課題としての確認事項>

生徒指導

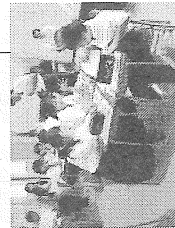
- ・望ましい等しい人間関係づくり、ことは道徳的規範意識の確立
- ・問題行動防止のための生徒指導体制の整備

教科指導

- ・授業規律の確立
- ・基礎・基本の定着（聴く・話す態度）
- ・授（家庭学習の定着・補充学習など）
- ・授業力の向上（定着・補充学習など）
- ・実証的・主体的な探究に向けて研究授業の実施及び主題追求
- ・授業の工夫改善
- ・外部人材の活用等

学級経営

- 安心して過ごせる学級（互いの良さを可能性を認め合える仲間づくり）
- 教育目標の具現化に向けた学級目標や取り組みの計画と実践
- 将来の進路や生き方についての進路指導の充実
- 整理・整頓、生徒の活動の見える教室環境づくり



勤務の負担軽減のポイント

（研究協力地域の実践や聞き取り調査から見えてきたこと）

①仕事の全体量を減らす。

- ・ 行事の精選
（従来から何となく続いている行事、一部職員だけの負担になっている行事等を見直す）
- ・ 環境整備
（清掃徹底で快適な学習環境を作る、整理整頓を徹底し、ものを探す時間を削る）
- ・ 校務分掌の整理
（一部職員だけの負担になっていないか校務分掌が機能しているかを見直す）
- ・ 会議や事務文書の削減
（ノー残業デー、ノー会議デーの設定や、文書様式簡素化などスリム化を意識する）

②教職員の力量 UP

- ・ On the Job Training の発想
（職員が前向きに創意工夫できる職場環境を作る）
- ・ 授業力向上
（授業研究形態を工夫し、授業交流を積極的に行う）
- ・ 児童生徒理解力の向上
（共に活動し進んで関わり、先手の生徒指導を行う）
- ・ 事務処理能力の向上
（ICT を活用し、情報の共有化を進める）

③組織マネジメント

- 課題の共通認識
 - ・ 学校評価等から明確になった課題の共通認識を大切にする。
- 教職員の自覚
 - ・ 学校運営への参画意識を醸成する。
 - ・ 教職員の創意工夫を引き出す。
 - ・ ミドルリーダーを育成する。
- 具体的な手立て
 - ・ 縦のつながり、横のつながりを意識的に取り入れる。
（例．小学校における教科担任制、縦割り活動の導入等）
 - ・ 地域との連携
（例．地域の教育力を取り入れ、学校を活性化する）
 - ・ 研究指定
（例．研究指定を活用し、教職員の力を高める）



再生紙と環境に優しい大豆インキを使用しています